

半グレの「やす」やさしくなった

鑑察所



講演会で再非行防止サポートセンター愛知の活動について話す
渋谷幸靖さん＝愛知県岡崎市

がんを患う母(66)の手を取り、階段を上るのを支えた。その夜、母からLINEでメッセージが届いた。「ハングレ ヤクザもどきの やすが やさしくなった めっちゃ嬉しかった ありがとう」。いま、非行少年の立ち直りを支援している男性は、服役した過去がある。

NPO法人「再非行防止サポートセンター愛知」(名古屋市中区)のスタッフ渋谷幸靖さん(36)＝同市天白区。友達とのトラブルを機に小学6年で不登校になり、美容院を経営しながら一人で育ててくれた母に反抗するようになった。

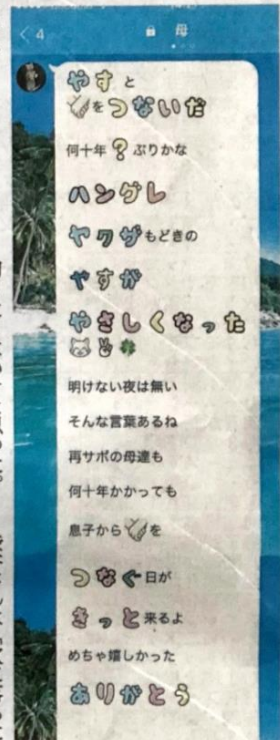
中学で夜遊びを覚え、たばこを吸い、無免許でバイクを運転した。盗みをすねば友達から「すじい」と称賛され、「かっこよさの価値観がとんとんずれてい

更生支援 服役支えた母への償い

高2の時、「おやじ狩り」をしたとして強盗致傷容疑で逮捕された。24歳で詐欺事件を起こし、懲役2年8カ月の実刑判決を受けた。刑務所でアクリル板越しに接見した母は、悲しい顔をしていた。

「待ってるから」

当時の妻子は離れていったが、母だけは「帰りを待ってるから」と、毎週、折り紙で飾った手紙やカードを送ってくれた。たくさん手紙をつづり、腫瘍炎になった母を見て、「もう裏



母から届いたLINEのメッセージ。手をつないだことを喜んでくれた。渋谷幸靖さん提供

切りたくない」と思った。

2008年に出所後、2年前にテレビでサポートセンターの活動を知った。「自分と同じ道を歩まないよう少年たちの力になりたい」とスタッフに。鑑別所や少年院に入所中の少年たちと面会を重ね、出所後は生活や就労を支えている。

2年間でかわった少年は約30人。だが、更生の道のりは平らではない。仕事が続けず、再非行や犯罪に手を染める人も少なくない。

最近、ある少年が職場で金を盗んだ容疑で逮捕された。面会で「自分は変わる事ができないから、ヤクザになる」と言う少年を、10代の頃は俺も迷惑ばかりかけていた。早く抜け出さないと俺みたいになる。失敗しても頑張っている姿を見たい。絶対に変われると信じている」と説得。少年は涙を浮かべて、「もう一度、やり直したい」と謝罪の言葉を口にした。

少年たちの力に

非行や犯罪を重ねても、自分を信じて待ち続けてくれた母はいま、ステージ3の大腸がんと闘っている。昨年夏、うだるような暑さの中、自宅の階段を上る母の手を取ったのは、抗がん剤の副作用で手の指に痛みが走り、手すりを握ることができないからだ。渋谷さんは「僕の人生の半分以上を親不孝で埋めてしまった」と悔む。

「少年たちを支え、非行や犯罪に悲しむ人を一人でも減らすことが、母への償いになると思っています」

(小若理恵)